免疫パスポートは人権の問題か？[1]

(Are Immunity Passports a Human Rights Issue?)

ジュリアン・サバレスキュ(Julian Savulescu)

本稿は、オックスフォード大学哲学科に拠点を置く 4 つの研究所が運営するブログ Practical Ethics[2]に掲載された表題の記事の紹介である。著者のサバレスキュはオックスフォード大学ウエヒロ応用倫理センター長で、応用倫理・生命倫理の専門家である。

新型コロナウイルスワクチンの接種と免疫の獲得を証明する「免疫パスポート（ワクチン・パスポート）」制度の導入が各国で検討される中、本記事では、他者危害原則と移動の自由に基づく免疫パスポート賛成論が展開されている。

あなたが飛行機に搭乗しようとしている場面を想像してみよう。当局は、あなたが弾丸の入った銃を所持していると根拠を持って考えている。それゆえ、彼らは正当にあなたを拘留することにした。しかし、捜査の末、あなたが銃を所持していないことが発覚したなら、当局はあなたを解放し、飛行機への搭乗を認めなければならない。正当な理由なしに拘留を続ければ、不正な拘禁にあたるだろう。

新型コロナウイルスを保持しているというのは、いつ誤発射するかわからない銃を常に持ち歩いているようなものだ。他者に危害をおよぼすリスクがあるなら、それが隔離やロックダウンなどの手段で人々の自由を制限する根拠になる。しかし、そのリスクがないなら、誰しも自由でなければならない。

もっとも、銃と新型コロナウイルスとの間には、このアナロジーが見過ごしている重要な違いがある。銃の誤発射の被害者とはちがい、新型コロナに感染した人のほとんどはすぐに回復するからだ。しかし、パンデミックにおいては、自由を制限する第二の根拠が存在する。すなわち、感染を減らし、国民保険サービスを守るという目的である。新型コロナに感染した人は、保険制度に負担をかけることでも他者に危害をおよぼすのだ。

新型コロナの感染と免疫については目下研究が進められているところだが、

---

[1] http://blog.practicalethics.ox.ac.uk/2021/01/are-immunity-passports-a-human-rights-issue/
なお、本記事は 2021 年 1 月 23 日に公開されたものである。

[2] http://blog.practicalethics.ox.ac.uk/

通常、免疫（自然免疫であれ、ワクチンによる免疫であれ）は本人の罹患を防ぎ、他者への感染を減少させる。免疫パスポートは、抗体の獲得あるいはワクチンの接種を証明し、したがって、その人が他者に危害をおよぼす脅威ではないことを示してくれる。我々は移動の自由という人権を持っているのだから、他者危害のリスクがないのならロックダウンから解放されるべきである。

免疫パスポートに反対する論者は、免疫のもたらす効果がまだ正確に走られていないと反論するだろう。この指摘は正しい。しかし、我々がこのような状態にあること自体、重大な道徳的問題――故意の無知なのである。被験者を新型コロナウイルスに感染させ、ウイルスの基本的な特徴についてのデータを収集する実験がかつて計画され、筆者もこれに賛成していた。しかし、実際に多くの健康な若者のボランティアが集まったにもかかわらず、いまのところ実験は実施されていない。

おそらく、免疫は感染のリスクを減少させるが、しかし根絶はしないというのが実態だろう。そうだとすると、免疫パスポートに対する合理的な反対論拠は、国民保険の状況がきわめて深刻であるために、ほんの少しの感染増加も許容できない、というものになる。

今のところはそのとおりだ。しかし、いつかの時点で、自動車の速度制限で利便性と交通事故死亡者数との間でバランスを取るのと同じ様に、移動の自由と新型コロナによる死者数との間でバランスを取る決断を迫られるだろう。そうしてロックダウンの緩和が開始されるなら、免疫を持っている人々が緩和対象の第一候補である。そして、パブに行くことだけでなく、様々な社会活動が可能になるはずだ。

こうした措置に反対して、社会の中の特定のグループを差別すべきでないと主張するものもいるかもしれない。しかし第一に、免疫パスポートの措置は一時的なものにすぎない。ワクチンの供給量が増えるにつれて、あらゆる人がワクチンを接種する機会を得るだろうし、その結果として集団免疫が獲得されれば、もはや免疫パスポートは必要でなくなる。第二に、免疫を獲得し、他者危害のおそれのない人を別様に扱うことには正当な理由がある。彼らを免疫のない人々と同様に扱うなら、それは「水準低下」の平等[3]である。第三に、人々は、不正だ

[3] （要約者註）相対的に恵まれた人々の境遇を低下させることで達成される平等のこと。

と考える法律には従わない。自分は免疫を持っていると信じている人は、もはやロックダウンには従わないだろう。

ロックダウンは、パンデミックの初期には間違いなく必要な措置だったが、もはや不必要だ。そして、免疫パスポートは、人々の権利を尊重しつつ社会を再稼働することを可能にするひとつの方法なのである。

（要約：京都大学文学研究科修士課程 鈴木英仁）